

リーフレット完成！

北海道食といのちの会の公式リーフレットができました!! 友人・知人に渡したり、施設に置いたりしてもらい、発信ツールとして活用ください。団体会員の皆さんもメンバーに配布し、お店に置くなど活用ください。必要枚数を事務局に連絡いただければ、お送りします



会費納入のお願い

2024 年度会費を 8 月末までに下記の要領でお支払いいただくよう、お願いします。

会費は下記から納入願います

○振込先：ゆうちょ銀行振替口座

■ゆうちょ銀行(郵便局)の場合

口座記号番号：00160-4-674332

口座名称：北海道食といのちの会

■ゆうちょ銀行以外の場合

店名(店番)：〇一九店(019)

預金種目：当座

口座番号：0674332

○年会費の区分は次の通りです。

- | | |
|--------------------|------|
| 1) 個人 | 1 千円 |
| 2) 構成員が 100 名未満の団体 | 3 千円 |
| 3) 構成員が 300 名未満の団体 | 5 千円 |
| 4) 構成員が 300 名以上の団体 | 1 万円 |



当会ホームページは左、フェイスブックは右の二次元コードからお入りください。



◆会員だより◆

種や農業のことをゲームやアニメの力で広げては！

渡辺 恵美子さん

お米を作る過程が詳細にゲームシステムに組み込まれているのが特徴の和風アクションゲーム「天穂（てんすい）のサクナヒメ」。2020 年に発売されてから全世界で累計 150 万本以上になるとのこと。ゲームを攻略するため、田起こし・代掻き・育苗などの作業やコツなどを農水省のホームページなどで熱心に調べる人が急増し、今では農水省とのコラボもしています。

7 月 6 日からは、テレビ東京で毎週土曜日午後 11 時からアニメも放映開始。ストーリーと共に田んぼなどの日本の原風景も美しく魅力的です。

ゲームやアニメの力はすごいと改めて思う。こんな風にお米だけでなく他の作物のこと、種のこと、日本の農業のこれからや現状の問題点などを面白くストーリーにして、ゲームやアニメをつくって欲しい…。まずは種のことの特化したものでもいいかも、などと想像を広げています。

<ご寄付のお願い>

食はいのちの源です。次の世代に安全・安心な環境と食を残すため、活動をご支援ください。ご寄付は 1 口 1 千円から。いのちの会を支えるサポーターとして熱いご支援をお寄せください。振込口座は下記の通りです。

■北洋銀行宮の沢支店 店番：137
普通預金口座：3266036
口座名義：北海道食といのちの会

北海道食といのちの会

会 長 久田 徳二
事務局(事務局長 山崎 栄子)
札幌市厚別区大谷地東 1 丁目 4 番 15 号
生活クラブ生活協同組合北海道内
電 話： 011-887-8891
メール： mito@club.s-coop.or.jp
フェイスブック：
<https://www.facebook.com/Hokkaido.Syoku.Inochi513/>



第4回 北海道食といのちの会総会

放射線照射米に警戒必要

展
開
し
た
第
4
回
総
会



北海道食といのちの会は 6 月 15 日、札幌市内で第 4 回総会を開き、2024 年度活動方針、新役員体制などを決定しました。伊藤一弘さんを新役員に選任しました。

活動報告では、初めて取り組んだ有機農場見学会(23 年 8 月・北竜町)で、参加者が有機農業の現場で農業者からリアルな話を聴き、会員交流と学

農薬散布調査を検討へ

習を目的にした新年交流会(24 年 1 月・札幌市)では会員と一緒に料理を作り食べながら歓談し、いずれも有意義だったこと。会のホームページが完成し、Facebook へのフォロワーが増えたことも報告されました。24 年度活動方針では、放射線照射米が安全性も確認されないまま、秋田県が既存品種からの全量転換を行う方針であることから、北海道でも警戒が必要であることが指摘されました。遺伝子操作生物への表示を求める運動が大事になっていること、危険な農薬除草剤がまん延しつつある中、学校などでの使用・管理実態を調べる運動の検討を確認しました。

<役員体制>=敬称略。◎は新任
▽会長 久田徳二(北海道大学客員教授)
▽副会長 吾田英津子(DTP デザイナー)、高橋伸行(前北海道有機農業研究会事務局長)、富沢修一(農民運動北海道連合会書記長)
▽事務局長 山崎栄子(生活クラブ生協北海道理事)
▽役員 伊藤一弘(元農林水産省職員)、富塚とも子(さっぽろ食まちネット代表)
▽監査役 三部英二(札幌農業と歩む会会長)、星野武治(循環ネットワーク北海道代表)
▽相談役 麻田信二(元北海道副知事)、黄倉良二(元北竜農協組合長)、坂下明彦(北海道大学名誉教授)、西尾正道(北海道がんセンター名誉院長)

有機農場見学会を継続し、産消のネットワーク構築と有機給食の普及を目指す運動を進めていく方針を改めて確認しました。

旧北海道たねの会が行っていた定期開催学習会「たねまきの日」を復活継続していく方針も固めました。役員改選では、役員の尾崎圭子さん(北竜町議)が退任しました。(久田 徳二会長)

「たねまきの日」継続開催

北海道食といのちの会は、会員と一般向けに、学習と意見交換・交流する「たねまきの日」を開催しています。

5 月 15 日は、放射線照射米について、国や秋田県などの取り扱い方針を知り、食品としての安全性や品種の選択の自由はどうなるのかを学びました。次

回は、9 月 10 日に下記の内容で行います。皆さんの参加をお待ちしています。

講演「病気を作る生活環境を知る」

化学物質（農薬）と放射線（被ばく）を同時に摂取すると、相乗的に健康被害が発生することが動物実験で報告されています。日本はそんな生活環境にあり、世界一がん罹患率が高い国となっているのです。失って最も後悔するのは

健康ではないでしょうか。自分や家族の健康、みんなの健康を守るため、西尾正道氏の講演を聞き、意見交換をしましょう。

日時：9 月 10 日（火）18:30～20:30

会場：札幌エルプラザ 2 階環境研修室Ⅱ

講師：西尾正道氏（道がんセンター名誉院長）

参加費：500 円 詳しくはお知らせチラシをご覧ください。

いんやく ともや

印鑰智哉さん 総会記念講演

食の分岐点 子孫に何を残すのか

6 月 15 日、総会記念講演会として OK シードプロジェクト事務局長の印鑰智哉（いんやく・ともや）さんに講演いただきました＝写真＝。その要旨を紹介します。

日本は 1998 年にグローバル種苗企業の知的財産権を保護する UPOV（ユポフ）条約を批准後、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）、FTA（自由貿易協定）を締結し、種苗法改定などを行ってきました。

企業に食を委ねる方向に舵を切り、食の世界に遺伝子組み換え、ゲノム編集、放射線照射などのバイオテクノロジーが押し寄せ、タネが企業の利潤と直結するようになりました。この世界的な動きがもたらすものは豊かな食ではなく、健康被害、気候変動への影響、生態系の変化から生物絶滅の危機、そして食糧危機です。

秋田県のコメへの重イオンビーム照射問題では「品種としての脆弱性および欠陥」「脆弱さゆえに県内生産の全量を照射米にする動き」「表示義務がない」「輸出の目論みがある」「ゲノム編集につながりかねない危険性」「健康面への不安」などを教えていただきました。一方、そもそもカドミウムなど地中の重金属低減には有機農業で有効な解決策があることが示され、希望を感じました。

現在、世界的には、気候変動と食糧危機からタネの遺伝的多様性の重要性が認識され（種子主権）、アグロエコロジーと言われる生態系を大事にしたローカルな食システムや有機農業が



見直されているそうです。生態系の力を引き出し、生産性もむしろ高く、気候変動にもいい影響があり、持続可能だそうです。

反 UPOV 条約運動は急速に広がり、「民間企業にタネを任せられない。公的種苗事業と地域独自の在来種のタネの重要性、その決定に地方が参加すること」が認識され、条例や法案を制定した国も複数あるとのことでした。

食糧危機の本質は、人々に食糧主権がないこと。「子どもたちに安全で持続的な食べ物を与えるため給食や地域の農業を支えよう」という、お母さんたちの怒りから各地に食料政策協議会ができ、食の民主主義が目覚めているとのこと。先日、25 年ぶりに改訂となった食料・農業・農村基本法では企業化、大規模化、スマート農業化が目指される中、食料自給率の向上や種子を国内で作る政策はなく、世界の流れと逆行しています。

何を食べたいのか。どんな食や環境を子どもたちに残したいのか。私たちはもっと主体的に関わっていくべきではないのかと考えさせられた講演でした。（吾田 英津子）

有機農場を体感しよう



安平で8月31日に見学会

オーガニックファーム見学会・安平編を 8 月 31 日に開催します。消費者が有機農業に理解と関心を深め、有機農業の関係人口を増やすことが狙いです。

昨年は北竜町で開催し、有機農家の熱い想いを実際の畑を見ながら共有しました。参加者からは「農家さんの本音を聞けて参考になった」「有機栽培の苦労がわかった」「農機具を間近で初めて見た」などさまざまな感想をいただきました。

OKシードプロジェクト総会 爪痕残す活動を

ゲノム編集していない種苗や食品への表示を進める「OKシードプロジェクト」（印鑰智哉事務局長）の総会＝写真＝が 7 月 13、14 両日、東京で開催され、団体会員である当会から副会長の高橋伸行が出席しました。

活動報告では、地域のたねを守り未来へつなげる「シェアするたねプロジェクト」のた



今年は 2023 年に北海道で最初にオーガニックビレッジ宣言をした安平町です。宣言できるのは、有機農業の生産から消費まで地域ぐるみの取り組みを進める市町村です。

今回は、水稻、ジャガイモ、大豆、シイタケなどを栽培する 3 軒の有機農家に協力いただきます。参加費 2 千円（昼食代込み）。先着 20 人。詳しくは上記の二次元コードから確認ください。有機栽培農家の生の声を聞き、有機農場を体感しましょう。問い合わせはメールで hokkaido.shoku10inochi@gmail.com

（高橋 伸行）

ね BOX 設置活動が注目されました。増え続けるゲノム編集技術応用食品は、このままでは「有機」として認められる危機的状況であることが議論されました。秋田からの参加者は、カドミウム吸収を抑制するため放射線（重イオンビーム）を照射して開発した「あきたこまち R」問題への懸念を語りました。議事では、運用ルールを再定義し OK シードマークの添付条件を具体的事例で伝えることになりました。

総会に参加して、あらためて OK シードマークの啓発活動が消費者の意識向上に有効だと感じました。地域の自治体から変えていくことが力になり、結果が出ています。「あきたこまち R」問題も大きな力が影響していると思われます。地域の議員の理解を得ながら、小さい単位で変えていくことが、大きな力に対抗する手段です。印鑰さんの「既成事実をつくり、爪痕を残す」という言葉が印象に残りました。

（高橋 伸行）